

# 上佐野舟橋遺跡6

—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

二  
〇  
一  
八

2018

株式会社シン技術コンサル  
高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第 422 集

# 上佐野舟橋遺跡6

—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

2018

株式会社シン技術コンサル  
高崎市教育委員会





## 例 言

1. 本書は宅地造成工事に伴い実施された、「上佐野舟橋遺跡 6」（高崎市遺跡番号 746）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在地は、群馬県高崎市上佐野町字舟橋 99 番地 1 である。
3. 発掘調査は、平成 30 年 9 月 5 日から平成 30 年 9 月 25 日まで実施した。
4. 発掘調査および整理作業は高崎市教育委員会の指導・助言及び監督のもと、株式会社林設計事務所から委託を受けた株式会社シン技術コンサルが実施した。
5. 調査体制は以下の通りである。  
高崎市教育委員会  
株式会社シン技術コンサル 小林一弘（調査担当）、松田秀貴（測量担当）
6. 本書の編集は、小林、新井かをり（シン技術コンサル）が行った。執筆は、第 I 章を高崎市教育委員会、それ以外を小林が行った。
7. 本調査における図面・写真・出土遺物は、高崎市教育委員会で保管している。
8. 発掘調査参加者・整理作業参加者については、以下の通りである。（敬称略・五十音順）  
＜発掘作業参加者＞  
飯野景三、池谷厚子、児玉慶治、清水節子  
＜整理作業参加者＞  
池田敏雄

## 凡 例

1. 本書掲載の第 1 図は国土地理院発行 1/50,000 地形図『高崎』・『富岡』、第 2 図は高崎土地計画基本図 1/2,500、第 3 図は国土地理院発行 1/25,000 の地形図『高崎』・『富岡』を使用した。第 3 図、第 4 図は『倉賀野西上正六遺跡』（12p. の主要引用・参考文献参照）の第 4 図、第 5 図を改変して使用した。
2. 遺構平面図に示した方位は座標北であり、水準線は標高を示す。座標については世界測地系に基づく平面直角座標第 IX 系を使用した。
3. 土層および遺物の色調は『標準土色帖』（農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所 23 版）による。
4. 本書における遺構種類の略号は、SL= 水田、SJ= 畦畔である。
5. 本文・土層注記で表記されるテフラ名を以下に記す。  
As-A= 浅間 A 軽石 1783（天明 3）年降下  
As-B= 浅間 B 軽石 1108（天仁元）年降下

## 目 次

例	言	
凡	例	
目	次	
第 I 章	調査に至る経緯	1
第 II 章	調査の方法と経過	2
第 III 章	遺跡の立地と環境	3
第 1 節	地理的環境	3
第 2 節	歴史的環境	3
第 IV 章	基本層序	7
第 V 章	検出された遺構	8
第 1 節	水田跡	8
第 VI 章	まとめ	12
写真図版		
報告書抄録		

## 挿図目次

第 1 図	上佐野舟橋遺跡 6 位置図	1	第 5 図	基本土層柱状図	7
第 2 図	調査区位置図	2	第 6 図	調査区全体図	9
第 3 図	遺跡周辺の地形	3	第 7 図	SJ2～6、深掘りトレンチ	11
第 4 図	周辺の遺跡	4			

## 挿表目次

第 1 表	周辺の遺跡一覧表 (1)	4	第 3 表	周辺の遺跡一覧表 (3)	6
第 2 表	周辺の遺跡一覧表 (2)	5			

## 写真目次

PL.1	調査区全景 (南東から)
	調査区全景 (東から)
PL.2	SJ1~3 検出 (北から)
	SJ4 検出 (北から)
	SJ5・6 検出 (北から)
	SL1 馬蹄跡検出 (南東から)
	SJ2・3 断面 (南から)
	SJ4 断面 (南から)
	調査区壁断面 (北東から)
	深掘りトレンチ断面 (南西から)

# 第 I 章 調査に至る経緯

平成 30 年 5 月、土地所有者および施工責任者である山口悦雄氏と株式会社林設計事務所から、高崎市上佐野町において計画している宅地分譲住宅建設に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である上佐野舟橋遺跡に隣接するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年 5 月 21 日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、同年 6 月 20 日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、平安時代の水田跡に伴う畦畔を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「上佐野舟橋遺跡 6」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成 30 年 8 月 27 日に株式会社林設計事務所と民間調査機関株式会社シン技術コンサル北関東支店との間で契約を締結、また同日に株式会社林設計事務所・株式会社シン技術コンサル北関東支店・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督をすることとなった。



第 1 図 上佐野舟橋遺跡 6 位置図



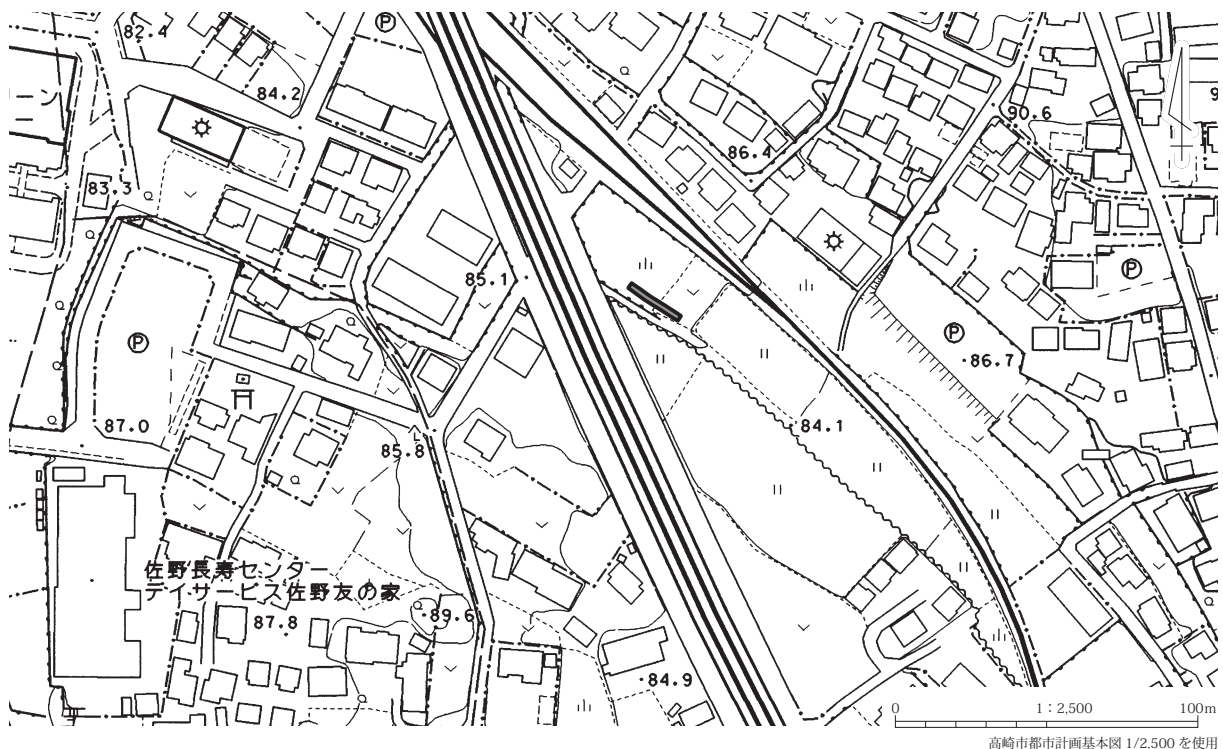
## 第Ⅱ章 調査の方法と経過

今回の発掘調査は、宅地造成工事予定地のうち、進入道路部分の約 40㎡を調査対象とした。調査は、まず重機によって As-B 層直上まで掘り下げた。但し、本調査区は表土層が厚く地表面下約 2.2m まで掘削する必要があったため、約 45°の斜度の法面を設けて崩落防止に努めた。その後ジョレンなどを用いて人力で As-B を除去し、下位層上面の検出・遺構確認を行った。遺構確認の結果、平安時代の水田跡を検出した。

水田跡は、移植ゴテなどを使用して表面を精査し、畦畔の起伏や農具痕、馬蹄跡の検出に努めた。検出された水田跡は、計測・写真撮影を行った。作図作業は、トータルステーションを用いた器械測量と写真測量を併用した。写真記録は、35mm モノクロネガ・同カラーリバーサルの 2 種類のフィルムを使用し、2416 万画素のデジタル一眼レフカメラを併用した。尚、調査地が新幹線と上信電鉄の軌道に近接しているため、調査区の全景撮影には高所作業車やドローン等を使用せず、高さ 3.6 m の脚立を使用した。全ての調査が終了した後、高崎市教育委員会の終了確認検査を受け、埋め戻しを行って現地調査を終了した。

平成 30 年

- 9 月 5・6 日 器材搬入、重機による表土掘削。
- 9 月 7 日 基準点測量。
- 9 月 10 日 人力による発掘調査開始。
- 9 月 14 日 As-B 下水田検出終了。全景撮影。
- 9 月 18 日 遺構計測。
- 9 月 19 日 高崎市教育委員会による現地調査の終了確認。
- 9 月 23・24 日 埋め戻し。
- 9 月 25 日 外周フェンス撤去、器材搬出。現地調査終了。



第 2 図 調査区位置図

## 第Ⅲ章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

高崎市は、関東平野の北西端からその奥の山地に位置し、市域の西端部の鼻曲山は長野県境である。ここを源流とする烏川は高崎市を北西から南東に貫流し、高崎市域は、榛名山山頂部を除くと、全て烏川とその支流の流域に含まれる。高崎市の地形は、西半部は山地・丘陵で占められ、東半部も烏川以南のほとんどが丘陵地であるが、烏川以北には高崎・前橋台地の平坦面が広がる。前橋台地は2～2.4万年前の浅間山の山体崩壊により発生した前橋泥流を基盤とし、その大部分を榛名・浅間山等が噴火した際の噴出物が覆って現在の地形を形成している。このうち井野川右岸から烏川左岸にかけての範囲では、高崎泥流層が更に数メートルの厚さで堆積しており、高崎台地と呼ばれている。この台地の南西側は烏川による浸食で比高10～5m程の崖が連続的に発達し、台地上は、井野川、粕沢川などによって、小規模な低地と微高地が入組んだ地形が形成されている。

本遺跡が所在する上佐野町は、高崎台地南西部の烏川と粕沢川に挟まれた地域である。調査区は町域の西端部に当たり、段丘崖と烏川現河道の間にある旧河道内に位置している。この旧河道は、幅が80m程あり東方向へ400m程湾曲している。このため、現河道との間に島状の微高地が形成されている。

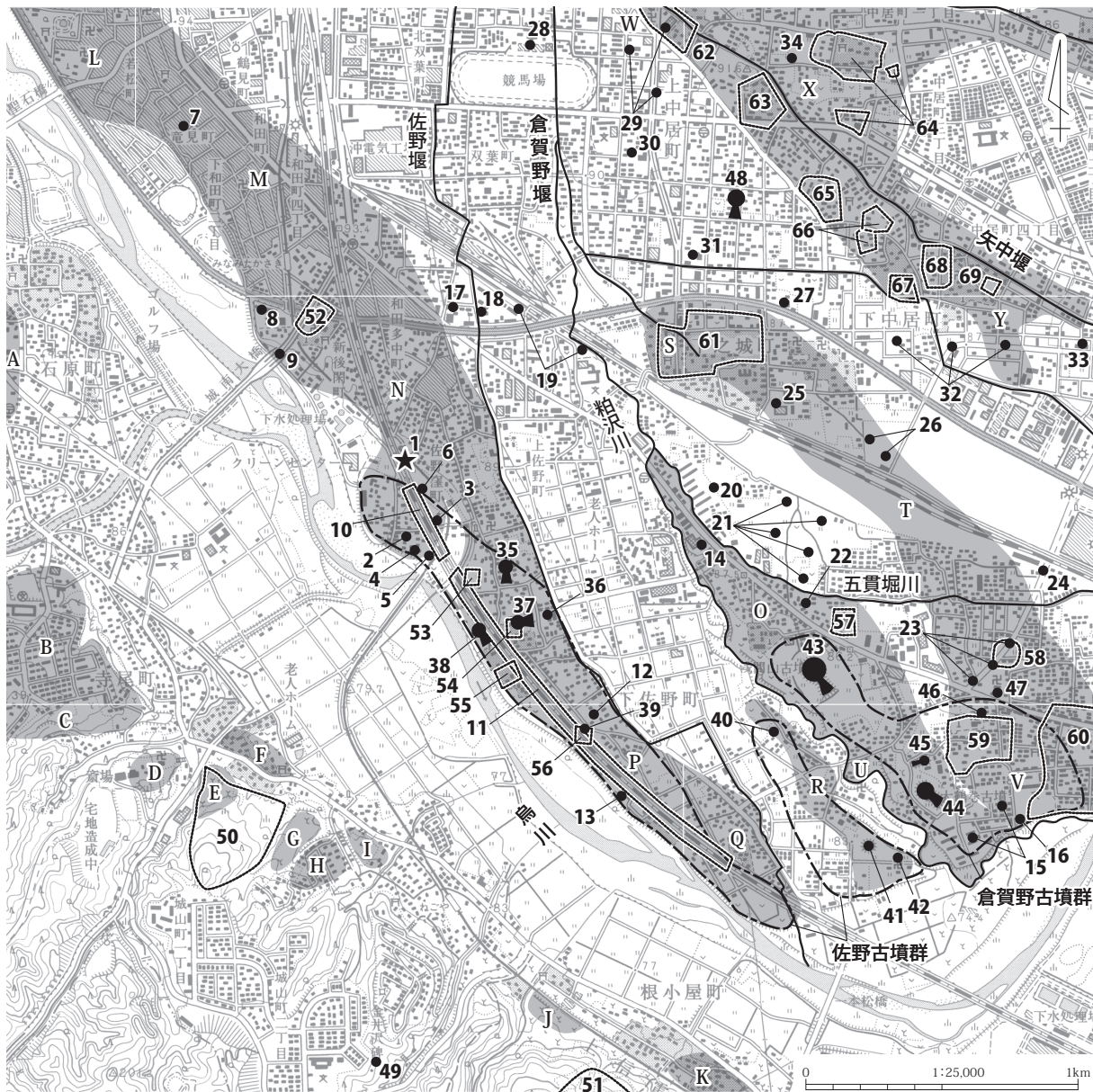


第3図 遺跡周辺の地形

### 第2節 歴史的環境

本遺跡周辺では、縄文時代以降の各時期の遺跡が確認されている。縄文時代は下佐野遺跡(11)、倉賀野万福寺遺跡(15)、下中居条里遺跡(32)で住居跡・土坑などが調査されている。弥生時代は烏川左岸の竜見町遺跡(7)、城南小校庭遺跡(8)、高崎競馬場遺跡(28)で中期後半の遺構・遺物が確認されている。





第4図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧表(1)

No.	遺跡名	主な時代・遺構	参考文献
1	上佐野舟橋遺跡6	平安(B水田)	本書収録
2	上佐野舟橋I遺跡	古墳(住居・方墳)、平安(住居)	調23集(1992)
3	上佐野舟橋II遺跡	古墳(住居)、平安(住居・井戸)	市121集(1992)
4	上佐野舟橋III遺跡	古墳(住居・円墳)、平安(住居・溝)	調22集(1992)
5	上佐野舟橋4遺跡	古墳(住居・円墳)、平安(住居)	市346集(2015)
6	上佐野舟橋遺跡5	古墳(溝)、平安(住居・溝)、中世以降(土坑)	市338集(2014)
7	竜見町遺跡	弥生(散布地)	群馬県史資料編2(1939)
8	城南小校庭遺跡	縄文(土器出土)、弥生(住居)等	市1集(1973)
9	新後閑寺廻遺跡	古墳(住居)、古代(住居)	市112集(1991)
10	舟橋遺跡	古墳(住居・土坑・古墳)、平安(住居・土坑)、中近世(井戸・土坑)等	群埋文92集(1989)
11	下佐野遺跡I・II	縄文(住居・土坑)、古墳(住居・古墳・周溝墓)、平安(住居・溝)等	群埋文48・77集(1986・1989)
12	下佐野一本木遺跡	古代(住居・石組遺構・土坑)	市225集(2008)
13	下佐野長者屋敷遺跡	古墳(住居)、中世(火葬跡)	市239集(2009)
14	倉賀野西上正六遺跡	古墳(住居・掘立)、中世(溝)	本書収録

※参考文献は以下の略称を使用した。(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・・・群埋文、高崎市教育委員会・・・市、高崎市遺跡調査会・・・調  
 ※水田は、市155集(1998)に準じた略号を使用した。C・・・As-C下、FA・・・Hr-FA下及び泥流下、FP・・・Hr-FP及び泥流下、B・・・As-B下、A・・・As-A下

第2表 周辺の遺跡一覧表(2)

No.	遺跡名	主な時代・遺構	参考文献
15	倉賀野万福寺遺跡Ⅰ・Ⅱ	縄文(住居・土坑)、古墳(住居・古墳・周溝墓)	調4・26集(1983・1994)
16	倉賀野宮ノ前遺跡	古墳(住居・周溝墓・古墳)、中世(堀)	市24集(1980)
17	和田多中遺跡	平安(B水田)	市93集(1989)
18	上佐野樋越遺跡	平安(B水田)、近世(A水田復旧痕)	群埋文『年報』14(1995)
19	双葉町Ⅰ遺跡	古墳(住居・溝)、平安(B水田)、近世(溝・竪穴状遺構)	調48集(1996)
20	下之城仲伸遺跡	古代(住居)、平安(B水田)、中世(溝・土坑)、近世(A復旧痕)	市192集(2004)
21	下之城村前Ⅰ～Ⅴ遺跡	古墳(住居)、平安(B水田)、中世(溝・土坑)、近世(A復旧溝)	調120・50・174・181集(1992・1996・2001・2002)、調184集(2003)
22	倉賀野上新堀Ⅰ遺跡	平安(B水田)	調174集(2001)
23	倉賀野条里Ⅰ～Ⅴ遺跡	古代(住居)、平安(B水田)	1992～1995・1997年度調査
24	倉賀野統橋遺跡	平安(B水田)、別名:倉賀野条里Ⅵ遺跡	市164集(1999)
25	下之城村西Ⅱ遺跡	平安(B水田)	調50集(1996)
26	下之城村東Ⅰ・Ⅱ遺跡	平安(B水田)	調1・5集(1983・1984)
27	下之城村北Ⅱ遺跡	平安(B水田)	市120集(1992)
28	高崎競馬場遺跡	弥生(住居)・平安(B水田)	1969年群馬大調査『考古学』10巻10号
29	上中居西屋敷遺跡Ⅰ～Ⅲ	古墳(C・FA・FP水田)、平安(B水田)、近世(A水田復旧痕)	調24・59・70集(1994・1997)
30	上中居荒神Ⅰ・Ⅱ遺跡	平安(B水田)	市158集(1998)、調62集(1996)
31	上中居島薬師遺跡	B(水田)	調68集(1997)
32	下中居条里遺跡Ⅰ～Ⅲ	縄文(住居)、古墳(住居・C水田)、平安(住居・B水田)、中近世(掘立)等	市145・159・183集(1996・1998・2003)
33	矢中村西遺跡	平安(B水田)	調44集(1999)
34	上中居字名遺跡	古墳(溝・土坑)	市254集(2010)
35	御堂塚古墳	前方後円墳	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
36	蔵王塚古墳	大型円墳(6世紀4/4)	『日本考古学年報』10(1963)
37	漆山古墳	前方後円墳(6世紀4/4～7世紀初頭)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
38	長山古墳	前方後円墳(=寺前地区4号古墳、群埋文調査)	群埋文77集(1989)
39	長者屋敷天王山古墳	円墳又は張り出し付き円墳(=I地区A区1号墳、前期末)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
40	庚申塚古墳	円墳(=下佐野8号墳、群馬大調査、前期末～中期初頭)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
41	大山古墳	円墳(=下佐野9号墳、群馬大調査、前期末～中期初頭)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
42	茶白山古墳	円墳(=下佐野13号墳、群馬大調査、前期末～中期初頭)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
43	浅間山古墳	前方後円墳(中期初頭)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
44	大鶴巻古墳	前方後円墳(中期初頭)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
45	小鶴巻古墳	前方後円墳(5世紀後半)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
46	一本杉古墳	円墳(7世紀中葉)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
47	安楽寺古墳	円墳(7世紀末)	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
48	越後塚古墳	前方後円墳	新編『高崎市史』資料編1原始古代1
49	金井沢碑	神亀3(726)年三家氏建立。国特別史跡。	新編『高崎市史』資料編2原始古代Ⅱ
50	寺尾茶白山城	南北朝期か。梯郭。	新編『高崎市史』資料編3中世1
51	根小屋城	16世紀(1570か)。武田氏の囲郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
52	新後閑屋敷	16世紀。新後閑氏の単郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
53	佐野屋敷	室町時代。単郭か。	新編『高崎市史』資料編3中世1
54	堀口屋敷	室町時代。堀口氏の複郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
55	清水屋敷	室町時代。方形館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
56	夕陽長者屋敷	室町時代。複郭。	新編『高崎市史』資料編3中世1
57	倉賀野新堀屋敷	室町時代。複郭か。	新編『高崎市史』資料編3中世1
58	上稲荷前屋敷	室町時代。単郭。	新編『高崎市史』資料編3中世1
59	倉賀野西城	室町時代。倉賀野氏の城か。	新編『高崎市史』資料編3中世1
60	倉賀野城	室町時代。倉賀野氏の複郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
61	和田下之城	16世紀後半。和田氏の複郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
62	反町城	室町時代。反町氏の複郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
63	新堀砦	室町時代。複郭か。	新編『高崎市史』資料編3中世1
64	宇名室環濠遺構	16世紀。堀氏などによる複郭式城館が想定されている。	新編『高崎市史』資料編3中世1
65	下中居新井屋敷	16世紀。新井氏による囲郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
66	高尾屋敷	戦国時代。高尾氏による単郭か。	新編『高崎市史』資料編3中世1
67	下中居福田屋敷	16世紀。福田氏による囲郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
68	下中居佐藤屋敷	16世紀。佐藤氏による複郭式城館。	新編『高崎市史』資料編3中世1
69	道場屋敷	複郭。	新編『高崎市史』資料編3中世1

※参考文献は以下の略称を使用した。(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団・・・群埋文、高崎市教育委員会・・・市、高崎市遺跡調査会・・・調

※水田は、市155集(1998)に準じた略号を使用した。C・・・As-C下、FA・・・Hr-FA下及び泥流下、FP・・・Hr-FP及び泥流下、B・・・As-B下、A・・・As-A下



第3表 周辺の遺跡一覧表(3)

No	遺跡名	主な時代・遺構	No	遺跡名	主な時代・遺構
A	石原 37-1 遺跡	縄文、弥生、古墳、平安、中世 (散布地、集落、城館、古墳)	N	上佐野 38 遺跡	縄文、古墳、奈良、平安、中世 (散布地、集落、古墳、その他)
B	石原 37-2 遺跡	古墳、奈良、平安、中世 (散布地、集落、古墳)	O	下佐野 39 遺跡	古墳、奈良、平安、中世 (散布地、集落、古墳、その他)
C	石原 43 遺跡	古墳、奈良、平安 (散布地、集落、古墳)	P	下佐野 44 遺跡	縄文、古墳、平安、中世 (散布地、集落、古墳)
D	石原 44-1 遺跡	古墳 (散布地、古墳)	Q	下佐野 45-1 遺跡	古墳、平安、中世 (散布地、集落、古墳)
E	石原 44-2 遺跡	古墳、平安 (散布地、集落)	R	下佐野 45-2 遺跡	縄文、古墳、平安 (散布地、集落、古墳)
F	石原 44-3 遺跡	古墳、平安 (散布地、集落)	S	下之城 38 遺跡	古墳、中世 (散布地、集落、その他)
G	石原 44-4 遺跡	古墳、平安 (散布地、集落)	T	倉賀野 39-1 遺跡	古墳、奈良、平安、中世 (散布地、集落、古墳、その他)
H	石原 44-5 遺跡	古墳、奈良 (散布地、集落、古墳)	U	倉賀野 45-1 遺跡	縄文、古墳、平安、中世 (散布地、集落、古墳、その他)
I	石原 44-6 遺跡	古墳、平安 (散布地、集落、古墳)	V	倉賀野 45-2 遺跡	縄文、古墳、平安、中世 (散布地、集落、古墳、その他)
J	根小屋 44-1 遺跡	古墳、平安 (散布地、集落)	W	高岡 31 遺跡	弥生、古墳、奈良、平安、中世 (散布地、集落、その他)
K	根小屋 44-2 遺跡	古墳、平安、中世 (散布地、集落)	X	中居 32 遺跡	古墳、奈良、平安、中世 (散布地、集落、古墳、その他)
L	高松 30 遺跡	弥生、古墳、奈良、平安、中世 (散布地、集落、古墳、その他)	Y	矢中 39 遺跡	弥生、古墳、奈良、平安、中世 (散布地、集落、古墳、その他)
M	竜見町 31 遺跡	弥生、平安 (散布地、集落)			

※  A～Y は埋蔵文化財包蔵範囲

古墳時代には遺跡数が増加し、烏川左岸の台地縁辺部の上佐野舟橋遺跡Ⅰ～Ⅲ・4(2～5)、舟橋遺跡(10)、下佐野遺跡などで集落遺構が調査されている。また、同地域には佐野古墳群が分布し、古墳時代前期から中期初頭・後期にかけて長者屋敷天王山古墳(39)、御堂塚古墳(35)、漆山古墳(37)などの古墳が築かれた。粕沢川左岸の微高地上には、浅間山古墳(43)、大鶴巻古墳(44)、小鶴巻古墳(45)などを含む倉賀野古墳群が、前期から後期初頭にかけて形成された。この他に終末期古墳としては、倉賀野古墳群の北東に一本杉古墳(46)と安楽寺古墳(47)があり、本遺跡の南南東3.2kmには山ノ上古墳(図幅外)がある。この古墳に伴い天武天皇10(681)年に建てられたとする山ノ上碑の碑文中の「佐野三家(さのみみやけ)」は本地域を指すものと考えられている。

また、神亀3(726)年に建てられた金井沢碑(49)にある「群馬郡下賛郷(くるまのこおりしもさぬごう)」も本地域を示し、三家氏を名乗る豪族が居住していたとされている。但し、本遺跡周辺においては奈良時代の遺構の調査例は少なく判然としない。

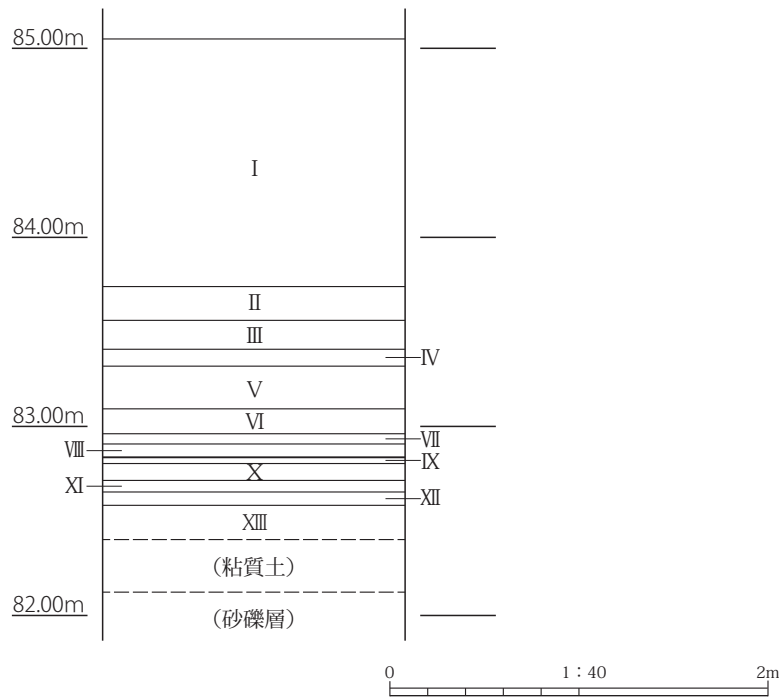
平安時代の集落については古墳時代集落と同様の分布を示し、烏川左岸の台地縁辺に多くみられる。下佐野遺跡では8世紀末に集落が出現し、9世紀後半には住居群の拡散が起り、10世紀には集落の発展がみられる。生産遺構では、本遺跡と同様のAs-Bによって埋没した水田が高崎台地上の低地部分に広く分布している。台地縁辺の微高地と粕沢川の間和田多中遺跡(17)、上佐野樋越遺跡(18)、双葉町Ⅰ遺跡(19)、粕沢川の北東側の倉賀野条里遺跡(23)、五貫堀川の北側の下之城仲沖遺跡(20)、下之城村前遺跡(21)、倉賀野上新堀遺跡(22)などでAs-B下水田が検出されている。

中世には城館・環濠屋敷が多く存在した。高崎台地縁辺の微高地上には、倉賀野城(60)、倉賀野西城(59)などの城郭をはじめ、佐野屋敷(53)、堀口屋敷(54)、清水屋敷(55)などの屋敷が室町時代に築かれた。また推定鎌倉街道が渡河する当地は水陸交通の要衝であり、烏川対岸の観音山丘陵東部は要害の地であった。このため、寺尾茶臼山城(50)、根小屋城(51)などの山城が多く分布している。

近世には、中山道の和田、倉賀野宿、江戸船の終点の倉賀野河岸があり、交通・流通の拠点として発展した。

## 第IV章 基本層序

本遺跡では、I～XIII層の基本土層を確認した。I層は厚さ130cm程の盛土である。II層は旧耕作土である。III層はAs-Aと思われる軽石を含む砂質土層である。IV～VI層は橙色の粒を含むシルト層で、VI層上半を中心に酸化鉄が多く沈着している。VII層はAs-Bを多く含む土層で、VIII層はAs-Bの一次堆積層である。VIII層の軽石は粒径2mm程度であるが下部には5mm程のものが堆積しその下位には灰層が堆積する。IX層はAs-B下水田の耕作土である。X層はIX層より色の薄い暗褐色の粘質土層で、XI層は黒色粘土層である。XII層はXI層とXIII層の混合層、XIII層は灰黄褐色の粘質土層で層厚は18cm以上である。I～IX層は調査区全域に堆積しているが、X～XIII層は深掘りトレンチ内で確認したのみである。尚、深掘りトレンチ底面でピンポールによる探査を行った結果、XIII層と同様の土質の層がさらに46cm続き、その下位には層厚70cm以上の砂礫層が堆積しているものと考えられる。



### 基本土層

I 灰黄褐色 (10YR4/2)	粘性あり、締まり弱。表土。盛土。
II 黒褐色 (10YR3/2) 粘質シルト	粘性・締まりあり。粒径2mm以下の白色軽石、粒径10mm以下の炭化物微量含む。層下半に酸化鉄微量沈着。旧耕作土。
III 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質土	粘性・締まり弱。粒径5mm以下の白色軽石少量、粒径5mm以下の炭化物微量含む。酸化鉄少量沈着。
IV 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質シルト	粘性・締まりあり。粒径5mm以下の橙色粒・粒径3mm以下の白色軽石微量含む。酸化鉄微量沈着。
V 黒褐色 (10YR3/2) シルト	粘性あり、締まり弱。粒径10mm以下の橙色粒少量、粒径1mm以下の白色軽石微量含む。酸化鉄少量沈着。
VI 暗赤褐色 (5YR3/4) 砂質シルト	粘性あり、締まり弱。粒径20mm以下の橙色粒少量、粒径5mm以下の白色軽石・炭化物微量含む。上方に酸化鉄多量沈着。
VII 黒褐色 (10YR3/2) 砂質土	粘性弱、締まりなし。粒径1mm以下の軽石 (As-B) 多量含む。黒味の強い酸化鉄少量沈着。
VIII 褐灰色 (10YR4/1) 軽石	粘性・締まりなし。酸化鉄少量沈着。As-Bの一次堆積層。
IX 黒褐色 (10YR3/1) 粘土	粘性・締まり強。As-B下水田耕作土。
X 暗褐色 (10YR3/3) 粘質土	粘性強、締まりあり。酸化鉄少量沈着。
XI 黒色 (10YR2/1) 粘土	粘性・締まり強。酸化鉄少量沈着。
XII 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質土	粘性強、締まりあり。XI層の黒色粘土を斑状に多量含む。酸化鉄少量沈着。
XIII 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質土	粘性・締まりあり。酸化鉄少量沈着。

第5図 基本土層柱状図

## 第V章 検出された遺構

本遺跡で検出された遺構は、基本層序Ⅷ層（As-B）下の水田跡1面であった。

### 第1節 水田跡

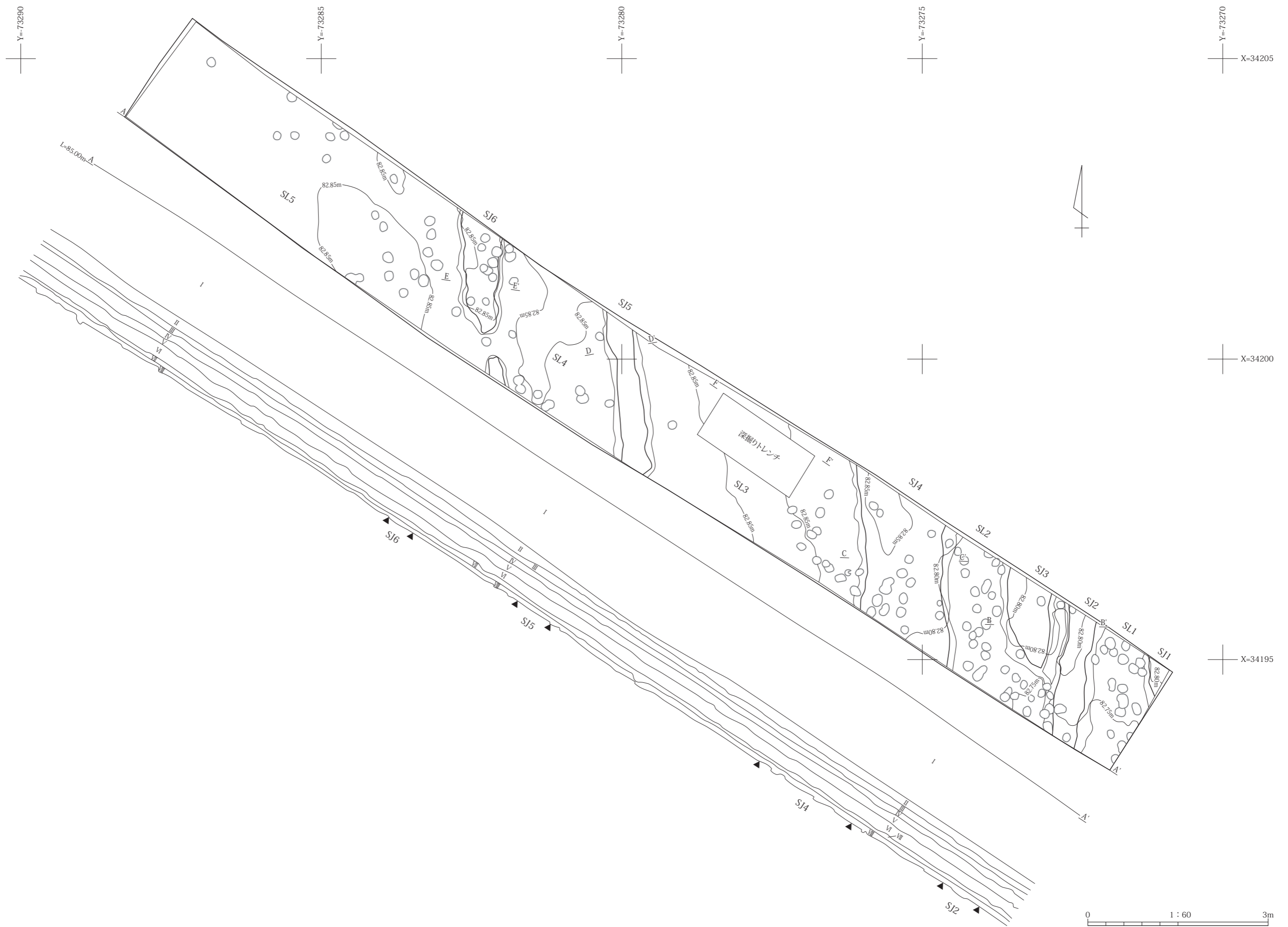
Ⅷ層（As-B）直下において、6本の畦畔（SJ1～6）と、これによって区画された水田5枚（SL1～5）を確認した。

SJ1～6はいずれも南北方向であり、調査区を斜めに横切る。SJ1は調査区の東端に位置し、西側の一部を検出したのみである。上幅33cm以上、下幅48cm以上、高さ4cm、検出長89cm程である。SJ2とSJ3は幅約33cmの浅い溝を挟んで隣接しており、同一の畦畔の可能性はある。SJ2は上幅45cm、下幅71cm、高さ4cm、検出長252cm程である。SJ3は上幅66cm、下幅83cm、高さ4cm、検出長89cm程である。SJ2とSJ3を同一畦畔と考え、北端部で上幅144cm、下幅168cm程となる。SJ4は上幅126cm、下幅167cm、高さは東側で6cm、西側で2cm、検出長353cm程である。SJ5は上幅36cm、下幅57cm、高さ1.2cm、検出長287cm程である。SJ6は水口が設けてあり、水口北側は上幅53cm、下幅72cm、高さ0.6cm、検出長207cm程、南側は上幅24cm、下幅39cm、検出長57cm程である。水口の幅は約34cmである。各畦畔の方位は、SJ1がN-10°-W、SJ2がN-25°-E、SJ3がN-14°-E、SJ4がN-14°-E、SJ5がN-8°-E、SJ6がN-14°-Eであり、SJ3・4・6が同一方向である。特徴的な畦畔として、SJ4は幅が比較的広い大型の畦畔である。また、SJ2とSJ3を単一の畦畔と考えた場合SJ4と同規模となる為、SJ2～4は溝を挟んで平行する大畦畔と考えることもできる。

水田は、調査区が狭小なため全体を検出できたものはなかった。畦畔間の平坦面をSL1～5としたが、SL1・2については、面積が小さいため水田の他に用水路としての用途も想定できる。各水田の検出規模は、SL1が南北231cm、東西84cm、SL2は南北323cm、東西138cm、SL3は南北462cm、東西324cm、SL4は南北366cm、東西171cm、SL5は南北573cm、東西549cmである。水田面の標高は、82.75m～82.85m程であるが、SJ4を境界にして、SL1・2とSL3～5の間に若干の高低差がみられ、東側が低くなっている。

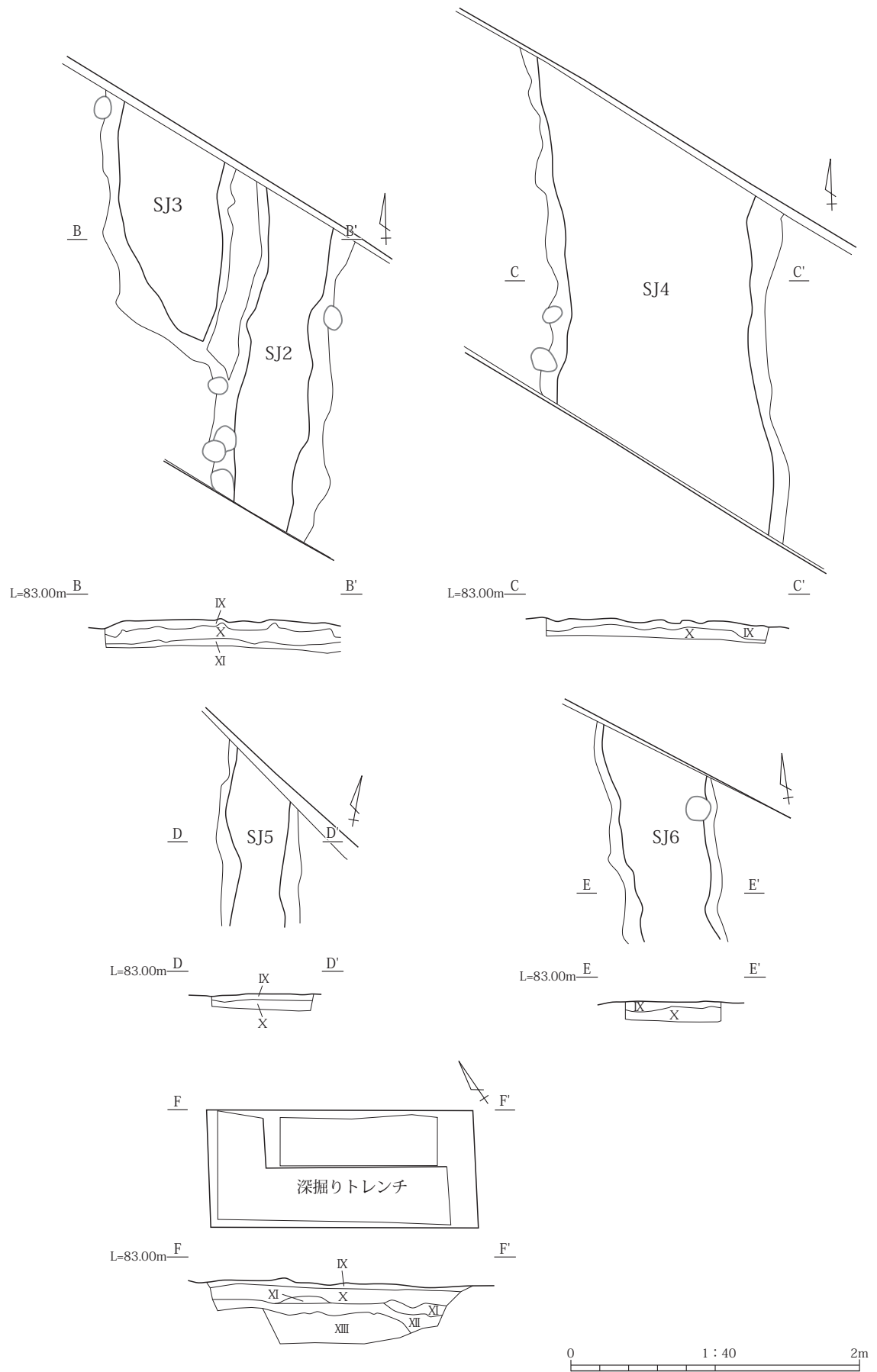
水田面・畦畔上の全域で馬蹄跡が検出された。分布には偏りがみられ、SJ1～4とSJ6付近で多くなっているが、前後脚の重複を別とすると、足跡の重なりはほとんどみられない。また、足跡から判断できる進行方向にも統一性はみられず、水田面・畦畔の区別なく歩行していることから、耕作に伴う足跡ではなく、一時的な通過によって印されたものと考えられる。この他にも農具痕と思われる細かな凹凸があるが、馬蹄跡と比較すると不明瞭でありAs-Bによる埋没までに時間が経過しており、風化作用が進んでいたものと考えられる。

遺物については、土師器・須恵器の小片がⅣ～Ⅵ層を中心に出土したが、遺構に伴う出土はなかった。



第6図 調査区全体図





第7図 SJ2～6、深掘りトレンチ

## 第Ⅵ章 まとめ

上佐野舟橋遺跡ではこれまでに5地点で本調査が行われたが、いずれも古墳・平安時代の集落が主体であり、As-B 下水田が検出されたのは今回が初めてである。これは、他の調査地点は微高地上に、今回の調査地点は旧河道の範囲内に位置するためである。尚、他地点で行われた試掘調査においても、この旧河道範囲内でAs-B 水田が複数確認されている。

今回検出された水田は、調査区が狭小なため水田区画全体の検出は不可能であったが、平行する南北方向の畦畔を複数確認した。このことから、当時の水田は条里地割に則って構築されたものと考えられる。しかし、本調査地の位置する水田可耕地は幅約80mの湾曲した旧河道であり、数十年前まで営まれていた現代の水田は、旧河道に沿って2列程の水田が並んで構築されていた。この狭い旧河道にこれと方向を異にする水田を築くのは非効率的と考えられるが、条里制地割の規制がこれを上回っていたものと考えられる。尚、当地の北東方向の小河川沿いの低地と段丘面にも条里水田が数多く検出されており、高崎・前橋台地上の広い範囲と共通の地割が用いられていたことが確認されている。本遺跡に近い粕沢川右岸の平坦部では条里水田の検出はほとんどされていないが、現在の地割に条里地割の名残りが認められる。尚、これを基準に条里地割を西側へ延長した場合、今回の調査区は坪境の位置には該当しなかった。

今回の調査では、水田面に多くの馬蹄跡が検出された。馬蹄跡が明瞭である反面、畦畔や農具痕と思われる細かな凹凸は不明瞭であることから、As-B 降下時には耕作後一定の時間が経過し湛水もしていない、休耕田の状態であったと考えられる。

今回検出された水田面はSJ4を境界にして若干の高低差がみられ、東側が低くなっている。周辺地形が旧河道の流向へ低くなっていることから、緩やかな棚田状になっていたと考えられる。これは、調査区南西壁面の土層断面にも現れているが、V層とVI層の境界にも同様の段差構造がみられる。このことから、As-B 降下以降、現代の水田までの間に同種の土地利用が行われていた可能性がある。

また、As-B 下水田よりも古い時期については、深掘りトレンチ部分でXI層の黒色粘土がみられたものの、水田などの遺構は確認されなかった。しかし、周囲には古墳時代の集落が分布することから、当時から水田として利用されていた可能性もある。今後の調査事例の増加によって更なる知見が得られることを期待したい。

### 主要引用・参考文献

高崎市史編さん委員会 『新編 高崎市史 資料編2 原始古代Ⅱ』2000

『上佐野舟橋遺跡』1992 高崎市遺跡調査会

『上佐野舟橋遺跡Ⅲ』1992 高崎市遺跡調査会

高崎市文化財調査報告書第268集 『倉賀野西上正六遺跡』2010 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第338集 『上佐野舟橋遺跡5』2014 高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第346集 『上佐野舟橋遺跡4』2015 高崎市教育委員会

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第6集 『下佐野遺跡Ⅱ地区』1986 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第77集 『下佐野遺跡Ⅰ地区』1989 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第92集 『舟橋遺跡』1989 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 写真図版









調査区全景（南東から）



調査区全景（東から）





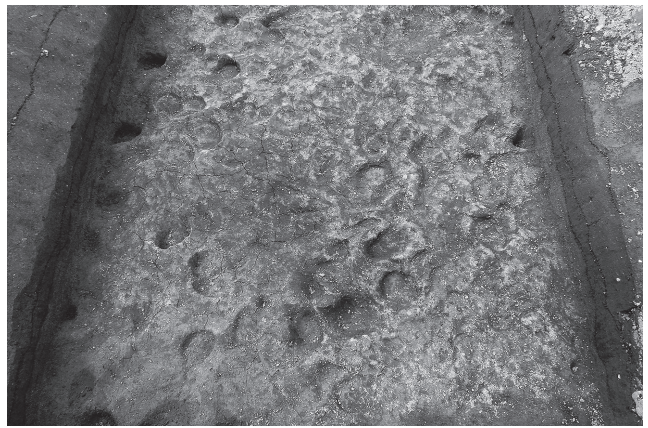
SJ1~3 検出 (北から)



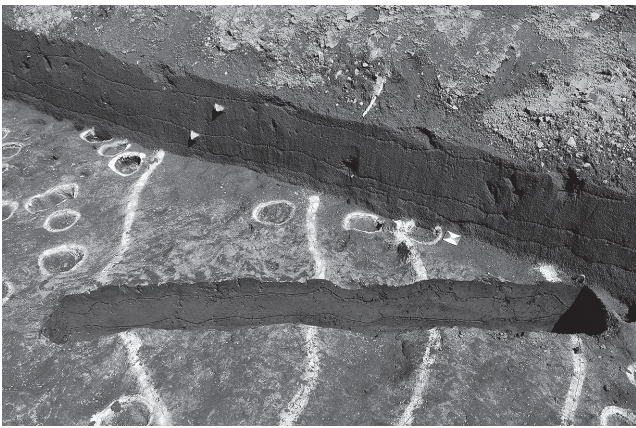
SJ4 検出 (北から)



SJ5・6 検出 (北から)



SL1 馬蹄跡検出 (南東から)



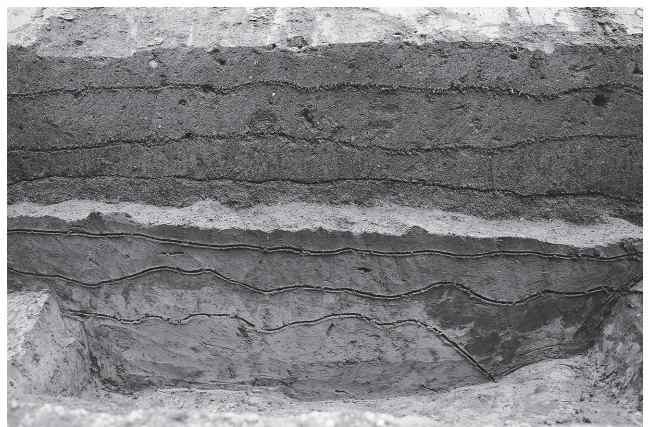
SJ2・3 断面 (南から)



SJ4 断面 (南から)



調査区壁断面 (北東から)



深掘りトレンチ断面 (南西から)



## 報告書抄録

フリガナ	カミサノフナバシイセキロク
書名	上佐野舟橋遺跡6
副書名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第422集
編著者名	小林一弘
編集機関	株式会社シン技術コンサル
所在地	〒370-1135 群馬県佐波郡玉村町板井311-1
発行年月日	2018年12月21日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
カミサノフナバシイセキロク 上佐野舟橋遺跡6	タカサキシカミサノマチ 高崎市上佐野町 アザフナバシ99バンチ1 字舟橋99番地1	102024	746	36° 18' 19"	139° 1' 3"	2018.9.5 ～ 2018.9.25	38.64m <sup>2</sup>	宅地造成 工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上佐野舟橋遺跡6	生産地	平安時代	水田		
	散布地	古代		土師器・須恵器	
要約	高崎市上佐野町に位置し、1108（天仁元）年に噴火した浅間山の火山灰で埋没した水田跡が検出された。南北方向の畦畔を複数確認し、大畦畔の可能性のあるものや、水口を伴うものが検出された。畦畔は比較的低く不明瞭で、馬蹄跡も多数みられることから休耕田であった可能性がある。				

# 上佐野舟橋遺跡 6

—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

---

平成 30 年 12 月 20 日 印刷

平成 30 年 12 月 21 日 発行

編集／株式会社シン技術コンサル

群馬県佐波郡玉村町板井 311-1 電話 0270-65-2777

発行／高崎市教育委員会

群馬県高崎市高松町 35 番地 1 電話 027-321-1291

印刷／細谷印刷有限公司

---